

静岡県浜名郡新居町新居方言のアスペクト

山口幸洋

I. はじめに

(1) 調査地点：静岡県浜名郡新居町新居。

当地は静岡県西部の浜名湖西南岸に位置し、方言的にはアクセントを除いて静岡県遠江より愛知県東三河地方に近い。江戸時代は東海道五十三次の宿場町として、また新居関所がおかれて発展した経緯があるが、特徴的なアクセントに代表されるように、周辺農村部に比べて方言上特に注意すべき点も多い。新居町地内全般の生業は古来の半農半漁に加え、町場としての商業と若干の工業があった。近年は会社工場の従業員が圧倒的に多く、人口的には微増を続けているが、構成上、他町村生育者が多数の比率を占めるようになり、それに伴う方言の変貌が激しい。人口は平成5年15,000人弱。

(2) 調査年月日：1993年9月10日

(3) 報告者：山口幸洋

(4) 話者（回答者）：本人（昭和11年新居生育）の内省を中心とする。話者自身の長年にわたる観察結果を踏まえている。

(5) 表記要領：

1) 文末部は代表形のみにとどめ、その場合*マークを付す。

2) アクセントを「（上昇），ㇿ（下降）方式で記す。

3) 回答語形が前問に対するのと同じ場合は設問後に＝と、前問番号を付して省略。

例：14＝13

II. 調査内容

1. (昔はよくトンボ捕りに) 行ったもんだね

(a) イッ「タモㇿンダナㇿー*、(b) イッ「タッタナㇿー*

aは、そのことを客観的に（他人事のように、あるいは「人に話すように」）発言する言い方、bは直接的にする（「そのことそのもの」をいう）言い方で、これを標準語には実際には訳そうとして訳せなくて困ることが多い。

2. (あの頃は) 面白かったなあ

オ「モシロカㇿッタナㇿー*

3. (もうちょっとで) 落ちるところだった

オ「チㇿルトコㇿダッタ、オ「チㇿルオッタ（老人が言う）

4. (ポケットから財布が) 落ちそうだよ

オ「チㇿーダㇿゾ*

5. (財布を) 落として

オ「トㇿイテ

6. (その続き) 困っている

コ「マㇿットル

7. (ろうそくが) 消えそうだよ

ケ「ーㇿーダㇿゾ*

8. (ろうそくの火が) 消えようとしている＝消えかかっている

ケ「ーㇿトシㇿトル、ケ「ーㇿラㇿトシㇿトル

9. (完全に、今見ている内に) 消えた

ケ「ーㇿタ、ケ「ーㇿチャッタ

10. (見に行ったら、もう) 消えていたよ

ケ「ーㇿトㇿッタヨ*

11. (何本ものろうそくが、時間が経ったので順に) 消え始めた

ケ「ーㇿハジメㇿタ、ケ「ーㇿカㇿㇿッタ

12. (その様子を見て) 消えて行くなあ ケ「ールナ「ー*, ケ「ーテ「クナ「ー*
13. (その様子を見て) 消えているよ (と, 人に言う)
ケ「ート「ルヨ*, ケ「ーチャット「ルヨ*
14. (全部のろうそくが消えた様子を見て) 消えているよ=13
15. (沢山のろうそくを, 係りの人が次々と) 消しているよ ケ「ヤイト「ルヨ*
16. (その様子を別の人に見に行かせて, 全部消したかどうかを聞く)
消しているか=消してしまったか
ケ「ヤイタ「カ*, ケ「ヤイト「ルカ*, ケ「ヤイチャット「カ*
17. (今にも桜が) 散りそうだ チ「リソ「ダ
18. (ちらほら) 散り始めた チ「リカカ「ツタ, チ「リカカ「ツトル
19. (今現に) 散っている チ「ツ「トル
20. (桜を見に行ったら, もう木には花が残っていないくて) 散っている
チ「ツ「チャット「ル
21. (地面に花びらが) 散っている=19
22. 今にも降りそうだ フ「リソ「ダ
23. (以前の様子. あのときは今にも) 降りそうだったなあ
フ「リソ「ダツタナ「ー*, フ「リソ「ーナツタナ「ー*
24. (以前の様子. あのときは実際にはもう) 降っていたよ
「フ「ツ「ツタ「ヨ*, 「フ「ツ「チャットツタ「ヨ*
25. (あのときはやがて夜が) 明けようとしていたよ
「ヨ「ガア「ケートシト「ツタ「ヨ*, 「ヨ「ガアケカカ「ツツタ「ヨ*
26. (来年の今ごろは) 家をたてている (最中だ)
ウ「チョ「ータ「ツトル, ウ「チャ「ータ「ツトラ「ー
27. (来年の今ごろはすでに) 家をたてているよ (建て終わっている)
ウ「チョ「ータ「ツトル, ウ「チョ「ータ「ツ「チャット「ル,
ウ「チャ「ータ「ツトル, ウ「チャ「ータ「ツ「チャットトラ「ー
28. (あの家はよく) 磨いてある ミ「ガイテア「ル
29. (隣の犬が) 鳴いている ナ「イト「ル
30. (隣の子が) 泣いている=29.
31. (子供が) 喧嘩している ケ「ンカシト「ル, ケ「ンカセト「ル
32. (家に) いるかなあ 「オ「ルカイナ「ー*
33. (〇〇さん) いるかい 「オ「ルカ*
34. (ああ) いるよ 「オ「ルヨ*
35. (噂話で) そういう人もいるよ ソ「ーユーシト「モオ「ルヨ*
36. (あなたは今) 何をしていたか ナ「ニョ「ーシト「ツタ「ダ*
37. (私は今金魚を) 見ていたよ 「ミ「トツタダ「ヨ*
38. (金魚が今にも) 死にそうだ シ「ニソ「ダ
- 38' (金魚が今にも) 死にかかっている シ「ニカカ「ツトル
- (注) 39/38' の違いは共通語と同じ。
39. (夕方帰ってみたら, その金魚は) 死んでいたよ シ「ンド「ツタヨ*
40. (本を) 読み始めていた ヨ「ミハジメ「トツタ

- 40'. (本を) 読みかかっていた ヨ「ミカカ」トツタ
 (注) 40/40' の違いは共通語と同じ。
41. 読み始めていたところへ (電話がかかって来た) ヨ「ミハジメ」トツタトコ「イ
 41'. 読み始めていたところへ (~) ヨ「ミカカ」トツタトコ「イ
 (注) 41/41' の違いは共通語と同じ。
42. つくと同時に (昼飯を) 食べた 「ツ」クトイ「シヨ」ニタベ「タ
 43. (向こうへ) つくと同時に電話をくれ 「ツ」コ「イ」タラ「ス」グデンワ「ク」リョー*
 44. (電話が) 鳴り続けている ナ「リ」ツズケ「ト」ル
 45. (小学生の子供に) 先生は何をしている?
 セ「ン」セーワ, ナ「ニ」ョーシ「ト」ルダ*
 46. 好きだ ス「キ」ダ
 47. 見られているのも知らずに寝ている ミ「ラ」レ「ト」ルノモシ「ラ」ンデネ「ト」ル
 48. (今, 運動会が) ある, (運動会を) やっている 「ア」ル, ヤッ「ト」ル
 49. 降らなくて良かったよ フ「ラ」ラ「ン」デ ヨ「カ」ツタヨ*
 50. (病院でかかりつけの先生がこっちへ) 来つつある 「ク」ル, 「キ」トル
 51. (犬がこっちへ) 来つつある=50
 52. 似ている ニ「ト」ル
 53. (一週間も前から遊びに) 来ている 「キ」トル
 54. (あの子は昔から) 苦労していない
 ク「ロ」ーシ「ト」ラ「ン」, ウ「イ」コ「ト」シ「ラ」ズダ (成句)
 (注) ウイは「憂い」の意味。
55. (今はあまり) 苦労しないている, 苦労していない ク「ロ」ーシ「ト」ラ「ン」
 56. 酒は売って (は) いるが, タバコは売って (は) いない
 サ「キ」ャーウツ「チ」ャ「ク」ーオルガ, タ「バ」カーウツ「ト」ラン
 サ「キ」ャーウツ「ト」ルガ, タ「バ」カーウツ「チ」ャ「ク」ーオ「ラ」ン
 ウツ「ト」ル
57. (昔からタバコを) 売っている
 58. (今, 夜店で) 売っている=53
 59. (もう三回) 来ている=53
 60. (いつも) 来ている=53
 61. (昔はいつも) 来ていた 「キ」トツタ
 62. (前に一度) 行っている イツ「ト」ル
 63. さきに行っておいてくれ サ「キ」ーイ「ツ」トツ「テ」ク「リ」ョー*
 64. 待っていないさい 「マ」ツ「ト」レ*
 65. (外に) 待たせてあるよ マ「タ」カ「イ」テ「ア」ルヨ
 66. (先に) 食べておいてくれ
 サ「キ」ャー「タ」ベ「ト」イ「テ」ク「リ」ョー*, サ「キ」ャー「タ」ベ「ト」ツ「テ」ク「リ」ョー*
 67. (昔と) 違っている チ「ガ」ツ「ト」ル
 68. (昔は今のと) 違っていた チ「ガ」ツ「ト」ツタ
 69. (毎日梅干しを) 食べている タ「ベ」ト「ル」
 70. (体操を毎朝) している シ「ト」ル, セ「ト」ル
 71. 気をつけていて (怪我をした) キョ「ー」ツケ「ト」ツテ

72. 行ったまま (帰ってこない) イッタママ, イッタサラ
73. 話をしながら (走っている)
ハ「ナショ」ーシナガラ, ハ「ナショ」ーシガテラ, ハ「ナショ」ーシガツラ
74. (役場へ) 行く途中, (郵便局に) 寄る
イ「キナガラ」ヨル, イ「キガテラ」, イ「キガツラ」
75. (役場へ) 行く途中, (偶然知り合いに) 会った
イ「クトチュー」デ イ「キア」コッタ, イ「クトチュー」ニ イ「キア」コッタ
76. (本を) 読むのを (途中で) やめて (表へ) 出た 「ヨ」ムノーヤ「メテ」デ「タ」
77. (その本は) 読んだばかりだ 「ヨ」ンダバー「カ」ダ, 「ヨ」ンダバ「カ」シダ,
「ヨ」ンダバ「カ」リダ, 「ヨ」ンダバー「カ」シダ
78. (読もうとしたら, 眼鏡が) なくなっている ナ「クナ」コトル
79. (早く食べないと) なくなるぞ ナ「クナ」ルゾ*
80. (ここに) 掛けておいた帽子がない カ「ケ」トイ「タ」ボーシ「ガ」ナ「イ」
81. (この本棚に) 並んだ本 ナ「ランダ」ホ「ン」, ナ「ランド」ル「ホ」ン
82. (この机に) 並べた本 ナ「ラベ」タ「ホ」ン, ナ「ラベ」テ「ア」ル「ホ」ン
83. (今の内にこの仕事を) やっておこうか ヤ「ツ」ト「カ」ー「カ」, ヤ「ツ」ト「ク」カ
84. (もう掃除は) やってあるか ヤ「ツ」テ「ア」ル「カ」*
85. (孫がおもちゃを) 壊している コ「ワ」イ「トル」
86. (おもちゃがもう) 壊れている コ「ワレ」コ「トル」
87. (おもちゃがもう) 壊されている コ「ワサレ」コ「トル」
88. (割れたガラスは危ないから) 退けてある ド「カイ」テ「ア」ル
89. (お礼状は) 書き終わった カ「キオ」ワ「コッタ」
90. (早く) 書いてしまいなさい

「カ」イ「チャ」エ*, 「カ」イ「チマ」エ*, 「カ」イ「テシマ」エ*

(注) 私自身は～チャエが多いと思っているが, でもこれに関しては深く考えたことがなく, ～チマエというときもあるかも知れないと思う。このようなこと(言語の内省におけるあいまい性)自体がどうしてあるのかと思う。

～テシマエは昔の老人がよく言っていたのを思い出す。現在はどうか。実際のところいろいろな人があって, にわかには回答できないと思う。老人クラブ等でアンケートをするのは容易だが, それをそのまま信用する気にもなれない。

91. (間違った字を) 書いてしまう
「カ」イ「チャ」ウ, 「カ」イ「チマ」ウ, 「カ」イ「テシマ」ウ
(注) 上に同じ。
92. (ちょっと難しい字を) 書いてみた 「カ」イ「テミ」コ「タ」
93. (おじいさんは) 入院している ニュ「ーインシ」トル
94. (東京にいる, おじいさんの弟もどこかへ) 入院しているようだ
ニュ「ーインシ」トル「ダゲ」コ「ナ」
95. (きっと) 良くなるよ 「ヨ」コ「ナ」ル「ヨ」*
96. (だんだん) 良くなるよ = 95
97. 年をとると (歯が悪くなる), 年をとってくと～
ト「ショ」ート「ルト」サイ「ガ」, ト「ショ」ート「コッタ」ク「ルト」サイ「ガ」

(注) ～トサイガを昔は私自身も(若小の頃)～トサイガラ, ～トサイニ, ～トサイニャーといろいろに言い, 現在でも周囲にそう言っている人がまだいる。

98. (齒は)直らなくなる, 直らなくなっていく, 直らなくなってくる

ナ「オラコクナコル, ナ「オラコクナコツテク, ナ「オラコクナコツテクコル

99-1. (犬が)怪我したので(病院へつれていく) ケ「ガコーシタモモンデ

-2. (子供が)怪我したので～=同じ

-3. (お父さんが)怪我したので～=同じ

-4. 雨が降ってきたのでやめておく。

ア「メコフツテキコタモンデ ヤ「メトコク

(注) ～モンデを昔, 私自身も～モンダイ, ～モンダイガ, ～モンダイガラのようにいろいろ言い, 今でも周囲にはそう言っている人がいるが, 私は言うことはなくなった。また, 周囲には～モンデガ, ～モンダデ, ～モンダニヨツテという人もかつてあった。今でもそういう人がいるかどうかは分からない。

100-1. 「雨が降りつつある」は, a「降りそうなこと」か, b「今ぼつぼつ降り始めたこと」か, c「すでに盛んに降っていること」か …… c

-2. 「貯金が増えつつある」は, a「これから少しずつ増えようとしていること」か, b「すでにある程度ふえていること」か …… b

-3. 「貯金を増やしつつある」は, a「増やそうと思っていること」か, b「それがだんだん実現していること」か, c「すでにかなり増えていること」か …… b c

【コメント】アスペクト調査上における「助詞」の扱いについて

「理由」助詞の「ので」と「から」に関する違いは, 単なるニュアンス上の違いといえばそうであるが, 話手自身の気持ちの問題としては重要なものであって, 「怪我をしたので」というところを「怪我をしたから」というと, 言わないと言ったら嘘だけど, その時その気持ちとしては, 気持ちに対して嘘だということがある。その文法的な意味については, けっこう文法書でも明らかにされているのでここで述べる必要はないであろう。が, それと方言形式との対応関係を一定の文例で回答を求める場合に, 方法として一抹の不安がある。「ので」は「から」は, かなりの部分用法上共通しながら, 「から」が理由を客観的(他人事のように, 何のせいで何する)に述べるものであるのに対し, 「ので」は理由を主観的(自分本位の理由で何する)に述べる。当方言ではモンデが「ので」に対応し, デが「から」に対応する。モンデというべき所をデといってもせめられないが, デというべき所をモンデというとは違和感があって使ったら「変」である。それはそのまま共通語「ので」と「から」の違いでもあって, この点に関しては共通語と同じである。99-1, 2, 3の場合, ケガコーシタデ(怪我をしたから)だと, 「怪我をしたこと」を淡々と述べるニュアンスがあり, ～モンデだと「怪我をしたために」という気持ちが強く現れる。これの使い分けに関する調査は, 他報告者と見解が統一されるものかどうか。

なお次に, 私自身の方言からすると, 項目100の質問に用いられている「つつ」が文語的な表現だと思え, 方言話者に対する質問は無理ではないかと思う。

(やまぐち こうよう 静岡大学人文学部)